

◎第9回理事会(39.2.28)

出席者：山本，岡本正副会長，羽田専務理事，大石，江口，田中，前沢，三野，嶋，渡辺の各理事。

A. 協議事項：1) 定例評議員会開催について日時・議題をつぎのとおり決定；①開催日時3月30日，②議題 理事定数の決定・理事監事の選挙方法，39年度事業計画および予算。2) 印税の委譲方申出について；故吉田博士宅より印税を学会に委譲したい旨申出があったので受諾して吉田賞基金に繰入れることにする。3) 借地料値上げについて羽田専務理事より説明があり承認。4) 50周年記念事業について指定寄付金等につき羽田専務理事より報告があり承認。5) 会員増加対策について。6) 土木図書館設置について。7) 渉外活動について。8) 理事の定数について。9) 委員の委嘱・交代の件

① 土木図書館運営委員会委員 および幹事

久野 悟 郎 (建設省土木研究所千葉支所)  
左 合 正 雄 (都立大学)  
酒井 清太郎 (名古屋工業大学)  
長山 泰 介 (日本原子力研究所技術情報部)  
樋口 芳 明 (国鉄鉄道技術研究所)  
松尾 新一郎 (京都大学)  
三宅 政 光 (都立田無工業高校)  
森 茂 (コンサルタント)  
八十島義之助 (東京大学)

委員兼幹事

千秋 信 一 (電力中央研究所技術研究所)  
堀井 健一郎 (早稲田大学)  
浅川 美 利 (日本大学)  
尾坂 芳 夫 (国鉄構造物設計事務所)  
駒田 敬 一 (建設省土木研究所千葉支所)  
佐藤 敦 久 (都立大学)  
伯野 元 彦 (東京大学生産技術研究所第1部)  
渡辺 重 幸 (建設省河川局)

② 土木学会誌編集委員会委員交代

田 三 池 寛 次 (熊本大学へ転勤のため)  
新 豊 島 修 (建設省土木研究所  
海岸研究室)

B. 報告事項：1) 会計報告。2) 刊行物の申込み状況。3) 会員入退会。4) その他。

◎各種委員会

(1) 本州四国耐震設計小委員会第10回幹事会(39.1.24)出席者：岡本委員長，ほか13名。議事：省略。

(2) 耐震構造設計研究委員会第9回幹事打合せ(39.1.24)出席者：担当幹事6名。議事：土木構造物の耐震設計指針(案)について検討した。

(3) 吉田賞委員会幹事会(39.1.27)

出席者：担当幹事3名。議事：昭和38年度吉田賞候補および吉田研究奨励金候補の推薦，応募について調整を行なった。

(4) 第2回耐震構造設計研究委員会(39.1.27)出席者：岡本委員長，ほか24名。議事：1) 幹事会における経過報告。2) 地震動観測について；①地表の地震動観測，②地中および橋脚地震動観測，③構造物におよぼす地震動の観測。3) 土木構造物の耐震設計指針(案)について；①設計震度，②構造物に作用する地震力，③構造物の安定，④構造部材の応力許容応力度と安全度。4) その他。

(5) 本州四国上部構造に関する専門部会耐風設計小委員会第16回幹事会(39.1.27)出席者：平井委員長，ほか8名。議事：省略。

(6) 50周年記念事業土木技術発展のあゆみ第2回編集委員会(39.1.27)出席者：沼田委員長，ほか31名。議事：1) 各部門の執筆のねらいについて。2) 執筆要項について。3) 各部会の部会長，執筆委員，幹事について。4) 原稿料について。5) 作業予定について。

(7) 会誌編集委員会(39.1.28)出席者：八十島委員長，ほか16名。議事：1) 報告事項(原稿執筆，投稿，その他)。2) 第7回編集小委員会報告。3) 第49巻第4号会誌編集の予定および計画。4) 投稿要項について。5) 特集号の企画について。6) 吉田賞・土木賞についての報告。7) 新規依頼原稿について。

(8) 第2回海岸工学委員会(39.1.28)出席者：本間委員長，ほか23名。議事：1) 第11回海岸工学講演会開催地の決定。2) 英文論文集について。3) 39年度事業計画と予算について。4) 海岸工学国際会議について。

(9) 本州四国上部構造に関する専門部会第12回耐風設計小委員会(39.1.29)出席者：平井委員長，ほか31名。議事：省略。

(10) 本州四国第5回基礎に関する専門部会(39.1.30)出席者：沼田部会長，ほか56名。議事：省略。

(11) 土木賞委員会幹事会(39.1.30)出席者：担当幹事4名。議事：昭和38年度土木賞候補につき，審査に付する価値主査幹事会の処置，審査員案を委員に発送するための調整を行なった。

(12) 岩盤力学委員会第4分科会(第3回)(39.1.31)出席者：担当委員3名。議事：1) 文献リストの整理方針。2) 水との関係での岩盤力学的考え方。3) 割れ目の表現について。

(13) 原子力関係コンクリート小委員

会打合せ(39.2.1)出席者：担当委員7名。議事：昭和39年度科学技術庁原子力平和利用に関する委託研究費の申請につき打合せた。

(14) 写真集編集委員会写真部門主査幹事会(39.2.3)出席者：片山委員長，ほか4名。議事：1) 写真集編集方針の再確認。2) 写真あつめの不備補正。3) 第二のページへの写真区分およびページ割案決定。4) その他。

(15) プレストレストコンクリート鉄道橋設計施工基準研究小委員会幹事会(39.2.5)出席者：担当幹事8名。議事：プレストレストコンクリート設計基準および施工基準の施工編につき審議した。

(16) 本州四国連絡橋技術調査委員会幹事打合せ(39.2.4)出席者：担当幹事11名。議事：省略。

(17) 第2回海外連絡委員会(39.2.4)出席者：柳沢委員長，ほか11名。議事：1) 国際会議の件。2) 英文年報の件。

(18) 原子力関係コンクリート小委員会(39.2.5)出席者：担当委員5名。議事：1) 39年度科学技術庁原子力平和利用に関する委託研究申請の打合せ。2) 38年度委託研究の報告について打合せ。

(19) 論文集編集委員会(39.2.5)出席者：吉川副委員長，ほか23名。議事：1) 前回部会長会報告。2) 審査中論文の報告。3) 新規受付原稿の審査委員の決定。4) その他。

(20) 第3回写真集編集委員会(39.2.6)出席者：片山委員長，ほか18名。議事：1) 委員会主査幹事会報告。2) 年表部門編集方針決定。3) 写真部門編集方針決定。4) 写真のあつめ方の依頼。

(21) 会誌編集小委員会(39.2.7)出席者：八十島委員長，ほか6名。議事：1) 49巻4号の編集方針について。2) 依頼原稿の決定。3) その他。

(22) 文献調査委員会(39.2.7)出席者：千秋委員長，ほか17名。議事：1) 49巻4号登載抄録について。2) 解説記事の作成について。3) 土木図書館運営委員会についての要望事項。4) その他。

(23) 50周年記念事業会誌・論文集総索引編集委員会(39.2.7)出席者：千秋委員長，ほか17名。議事：1) 総索引の印刷体裁について。2) 総索引の標題について。3) 原稿の最終修正，整理作業。

(24) 水理委員会幹事会(39.2.8)出席者：石原，横田正副委員長，ほか14名。議事：1) 国際会議について。2) 39年度事業計画の件。3) 39年度予算の件。

(25) 50周年記念事業会誌・論文集総索引出版打合せ(39.2.10)出席者：関係

者 5 名。議事：印刷者側と最終的な打合せを行なった。

(26) 第 1 回岩盤力学委員会 第 1 分科会 (39.2.10) 出席者：井上主査，ほか 4 名。議事：今後の活動方針について。

(27) 本州四国上部構造に関する専門部会耐風設計小委員会 第 17 回幹事会 (39.2.11) 出席者：平井委員長，ほか 14 名。議事：省略。

(28) 八郎潟干拓船越水道 計画施行研究委員会(39.2.12) 出席者：本間委員長，ほか 10 名。議事：1) 現地視察。2) その他。

(29) 第 17 回原子力土木技術委員会 (39.2.12) 出席者：左合委員長，ほか 11 名。議事：1) 第 2 回 原子力総合シンポジウムについて。2) 水理学における放射性同位元素の利用に関する問題。3) 昭和 39 年度科学技術庁の委託研究について。4) 原子力平和利用について。

(30) 論文集部会長会 (39.2.12) 出席者：奥村，吉川正副委員長，ほか 5 名。議事：1) 各部会報告。2) 論文集第 104 号～第 105 号登載原稿について。3) 委員交代の件。4) 39 年度予算について。

(31) 50 周年記念出版土木技術発展のあゆみ幹事会 (39.2.13) 出席者：担当幹事 9 名。議事：1) 鈴木幹事よりこの出版に対する趣旨，執筆要領の具体的な説明。2) 作業工程表 (案) について検討。

(32) 本州四国第 6 回耐震設計小委員会 (39.2.14) 出席者：岡本委員長，ほか 30 名。議事：省略。

(33) 土木賞委員会主査幹事会 (39.2.14) 出席者：国分学術賞主査，左合技術賞主査，ほか 3 名。議事：1) 土木賞委員からの回答書について。2) 審査に付する価値の判定。3) 主査幹事会の処置に関する意見。4) 審査員 (案) に対する意見。5) 審査報告書記載要領について。

(34) トンネル工学委員会主査幹事会 (39.2.17) 出席者：住友主査，村山主査，ほか 16 名。議事：1) トンネル標準示方書の最終検討。2) 昭和 39 年度夏期講習会について。3) 解説の執筆分担の件。

(35) 第 7 回 PC 鋼材分科会 (39.2.18) 出席者：富田主査，ほか 17 名。議事：1) プレストレスト構造用高張力円形断面鋼線材料に関する示方書について。2) PC 鋼線の機械的性質におよぼす腐食の影響について。3) PC 7t 鋼線の表面状況と疲れ強さの変化。4) 高強度 PC ストランドの試作について。5) 今後の研究調査方針について。

(36) 土木図書館運営委員会 (39.2.18) 出席者：米元委員長，ほか 14 名。議事：1) 第 1 回につき委員，幹事紹介。

2) 委員会の経過について。3) 委員会内規について。4) 土木図書館関係予算について。5) 土木図書館のあり方について。

(37) 第 4 回岩盤力学委員会 第 2 分科会 (39.2.19) 出席者：増田主査，ほか 9 名。議事：1) ジャッキ試験ととりまとめ方について。2) 第 2 分科会のビジョンについて。3) 今後の方針について。

(38) 岩盤力学委員会 第 9 回常任委員会 (39.2.20) 出席者：岡本委員長，ほか 22 名。議事：1) 前回議事録の確認。2) 各分科会の経過報告と常任委員会の当面の活動方針との関連。3) 国鉄のせん断試験について (講演)。4) 東京電力鬼怒川水力建設所の地下発電について。5) 岩の力学国内シンポジウムについて。

(39) 第 1 回関東支部設立小委員会 (39.2.20) 出席者：関係者 12 名。議事：1) 事業計画と予算案。2) 事務所の所在地。3) 役員。4) 発起人案の検討。

(40) 本州四国上部構造に関する専門部会第 16 回幹事会 (39.2.21) 出席者：関係幹事 9 名。議事：省略。

(41) 会誌電子計算機講座打合せ (39.2.21) 出席者：関係者 8 名。議事：会誌実用講座として“土木屋と電子計算機”を 49 巻 5 号より連載 (6 回) することになり，執筆項目の調整を行なった。

(42) 第 73 回耐震工学委員会 (39.2.21) 出席者：那須，岡本正副委員長，ほか 6 名。議事：1) 前回議事録の確認。2) WCEE について。3) 政府開会議について。4) 耐震構造設計研究委員会について。5) 土木振動学便覧について。6) 耐震規定 (英文) 改訂について。7) 今後の運営方針について。

(43) 本州四国上部構造に関する専門部会 (39.2.25) 出席者：平井委員長，ほか 27 名。議事：省略。

(44) 第 2 回出版企画委員会幹事会 (39.2.24) 出席者：荒井委員長，ほか 4 名。議事：1) 前回幹事会報告。2) 昭和 38 年度出版関係決算見込みおよび 39 年度予算の検討。3) 編集関係委員長懇談会についての議題審議。4) 出版物の著作権についての問題。

(45) 耐震構造設計研究委員会 第 3 回幹事会 (39.2.25) 出席者：関係者 12 名。議事：1) 自由度系のレスポンス。2) 震度階と鉄道橋の震害について。3) 新幹線標準高架橋のレスポンス。4) 荒川地震計記録について。

(46) 第 8 回学術講演連絡委員会 (39.2.25) 出席者：林委員長，ほか 9 名。議事：1) 39 年度年次学術講演会プログラム検討。2) 39 年度事業計画および予算。

(47) 本州四国基礎に関する専門部会 第 3 回地盤調査幹事会 (39.2.26) 出席者：沼田部会長，ほか 3 名。議事：省略。

(48) 50 周年記念出版土木技術発展のあゆみコンクリート分科会 (39.2.25) 出席者：関係者 5 名。議事：土木技術発展のあゆみ編集について，コンクリート部門につき執筆委員間で執筆の細部につき話し合った。

◎その他

(1) 長径間橋梁下部構造の設計施工に関する講習会 (39.1.24)

場所：東京大学工学部 1 号館 15 号教室 参加者：200 名

議題：長径間橋梁下部構造の設計，施工についてスライド等を使用して説明があり，盛会のうちに終わった。

(2) 第 3 回土木学会・日本建築学会コンクリート用語統一打合せ (39.1.28)

場所：日本建築学会会議室

出席者：関係者 10 名

議題：1) 前回議事録の承認。2) 第 1 次統一案に対する両学会の意見の件。

(3) 河川災害に関するパネルディスカッション (39.2.8～9)

場所：日本化学会講堂

主催：文部省 災害科学総合研究班河川専門分科会

参加者：延 150 名

テーマ：1) 河川災害とは何か。2) 河川の防災基準。3) 災害予知および観測。

4) 資料整理。

(4) 第 4 回土木学会・日本建築学会コンクリート連合委員会 (39.2.10)

場所：日本建築学会会議室

出席者：関係者 16 名。

議題：1) 第 3 回委員会議事録について。2) 訳語選定分科会について。3) スラブ分科会について。4) 鉄筋コンクリート用棒鋼規格案について。5) CEB との Joint Committee について。6) PC 鋼材に関する質問書の回答について。7) 分科会の開催について。8) Soretz 氏を囲む会について。9) その他。

(5) 第 27 回関東地区学生諸君のための映画会 (39.2.15)

場所：土木学会会議室

参加者：15 名。上映映画：① 製鉄 ② 建設機械の取扱いと作業方法

(6) 第 4 回土木学会・日本建築学会コンクリート用語統一打合せ (39.2.25)

場所：土木学会会議室

出席者：関係者 11 名。

議題：1) 前回議事録の承認。2) 両学会誌に統一発表について。3) 今後の運営方針。4) その他。

## 支 部 だ よ り

### ◎中部支部

(1) 第3回見学会 (38.11.22)

名神高連道路 関ヶ原工区舗装工事現場

参加者: 105名

(2) 第1回技術講座 (39.12.6, 名大

工学部土木教室にて)

講座名: 「光弾性学の土木工学への応用」

講師: 名大助教授 川本眺万

参加者: 43名

(3) 第3回役員会および第8回幹事会 (38.12.13, 名古屋中村会館)

出席者: 松見支部長, 渡辺幹事長, ほか 45名

議 事: 1) 役員の異動について

商議員 (旧) 中嶋義美 (新) 安部清孝  
幹 事 (旧) 小野一良 (新) 喜内 敏  
2) 評議員選挙結果について。3) 11~12月の行事報告。4) 39年度の支部大会の件。5) 新年度の支部長候補について。

(4) 第9回 幹事会 (39.1.21 都ホテル) 出席者: 渡辺幹事長ほか 21人

1) 評議員会について; 鈴木 和平 評議員より報告あり。2) 支部長, 幹事長会について。3) 中部支部講習会について。4) 土木賞および吉田賞について。

### ◎関西支部

(1) 新幹線工事シンポジウム (39.1.28, 大阪科学技術センター)

題目と講師

建設基準ならびに工事施工一般

国鉄大阪幹線工事局 原島 龍一

構造物設計関係 国鉄新幹線局 松本 嘉司

停車場関係 国鉄新幹線局 富井 義郎

軌道ならびに保守関係 石原 勉

国鉄大阪幹線工事局 石原 勉

車輛関係 国鉄新幹線局 菅井満寿男  
運転関係 国鉄新幹線局 関川 行雄  
電気関係 国鉄大阪幹線工事局 武居 栄也  
司会 国鉄大阪工事局 大平 拓也  
以上の講師を囲んで解説の後討論が 活発に行なわれた。

映 画: 新幹線 16mm カラーシネスコ 50分  
参加者: 70名

(2) 応力測定展示講習会 (39.2.14~15, 大阪府立工業奨励館研修会館)

共 催: 日本材料学会 関西支部・日本機械学会 関西支部・日本 非破壊検査協会 関西支部・日本 建築学会 近畿支部・土木学会 関西支部

題 目: 8題, 討論, 機器紹介

参加者: 185名

(3) 第10回幹事会 (39.2.14, 土木学会 関西支部事務局)

出席者: 石田支部長, 松尾事幹長, ほか 13名。

## 編 集 後 記

■ 日本経済の生長のすばらしさが, 自由諸国の代表選手のようにいわれています。生活消費材も耐久材も, 私達の周囲は, 先進国にくらべて見劣りしないまでに生長しています。大企業の生産性の向上は, 非常に目ざましいものがあります。

■ 一方, 都市の人口過度集中による各種の公害, 住宅問題, オリンピックを控えての街の大混乱, 河川の悪臭, 水の不足, 毎日のように起こる交通災害, さらにスモッグによる被害等, もう, どうにもならない所にきています。この原因の主要なものに公共施設, 社会資本の立ち遅れをあげることができる。

■ 最近ようやくわが国の公共投資

は大きな伸びを示し, 社会資本の遅れの是正に向っているといえましょう。産業および生活の基盤拡充と国土開発, 保全の強化に重点を置き39年度もスタートを切りました。土木事業の量が増し, 内容に複雑さを加え, 土木技術者の使命と責任はますます大きいものがあり, 学会誌の意義も使命もまた大きいものがあるといえる。

■ ここに4月号をおとどけします。今月は論説に田淵氏の「都市における水利用」渡辺氏の「工事請負契約の近代化」をいただきました。われわれの周囲が前に述べた現状にあるとき, いずれも各方面で研究論議されている重要な課題であります。小竹氏の「東京付近の通勤輸送

の現状と対策」, 都市の人口過度集中化のますますはげしいおり, 興味を引く問題であります。高瀬氏の実用的見地からの河川高水位の推定法, 話の広場に高橋氏の東南アジアの紹介, その他多くの報告, 解説, 講座を掲載しました。

■ 先月号まで特集記事が続き, 皆様からの投稿が大幅にストックされて, 早くから投稿された方々に大変ご迷惑をかけていました。今月は特集を止め, 編集部で整理されていた原稿を全部登載するよう努めました。実用講座として9回にわたりました「爆破」は, 今回で終了し, 次回からは6回にわたり, 実用化のための電子計算機の講座を開きます。どうかご期待下さい。(城野忠雄・記)

### 昭和 38 年度 土木学会誌 編集委員

委員 長	八十島 義之助				委員兼幹事	松本 成 男
委 員	石井 文 夫 斉藤 俊彦 新谷 洋二 梅田 卓郎	城野 忠雄 原田 信昭 森本 茂男 遠藤 篤康	千秋 信一 藤井 喬 湯浅 昭 大山 忠	土屋 昭 町田 富士夫 渡辺 隆 菊川 哲士	後藤 績 奈良部 俊雄 三池 亮次	佐藤 尚徳 南部 繁春 森 麟
地方委員	(北海道支部) 菅原 照雄 河野 文弘	(東北支部) 三浦 晃 阿部 泰夫	(中部支部) 酒井 清太郎 増田 重臣	(関西支部) 赤尾 親助 西村 昭	(中四支部) 門田 博知 玉井 敏一	(西部支部) 小坪 清真 長友 文昭

会員入退会について (昭和 39.2.1~2.29)

入会	94名(正 64 学 21 特 1.B 2 特 1.C 1 特 1.D 5 特 2 1)
復活	4名(正)
退会	22名(正 19 学 1 特 1.D 2)
死亡	4名(正)
転格	1名(学 → 正)

特別員入退会

○入会	昭和 39.2.6	特 1.B	川崎製鉄 KK 建設資材研究室	東京都千代田区丸の内 2-3 (東京ビル 6階)
	" 2.12	"	KK 熊谷組名古屋支店	名古屋市中川区西日置町 1-5
	" 2.11	特 1.C	石川島播磨重工業 KK 札幌営業所	札幌市北 1 条西 4 丁目 1 番地
	" "	特 1.D	東海臨港開発 KK 札幌支店	札幌市北 1 条西 5 丁目 3 北 1 条ビル
	" "	"	東邦産業 KK	大阪市南区順慶町通 4-25
	" "	"	KK 熊谷組仙台支店	仙台市北 1 番丁 32
	" 2.6	"	北海道開発局	札幌市北 3 条西 4 丁目
	" 2.18	"	室蘭土木現業所	室蘭市常盤町 2 番地
	" 2.11	特 2	大阪工業大学図書館	大阪市旭区大宮北ノ町
○退会	昭和 39.2.24	特 1.D	住友建設 KK 日本橋分館	東京都中央区日本橋江戸橋 2-7
	" "	"	フランス物産 KK	東京都千代田区神田錦町 1-6

会員現在数

名誉	正員	学生員	賛助	特級	特 1.A	特 1.B	特 1.C	特 1.D	特 2	合計	(増)
49	14572	1886	30	18	16	47	228	334	28	17202	(72)

正会員	岩崎 富久君	中央大学教授	昭和 39.2.21	死亡	75才
"	古畑 隆平君	長野県土尻川砂防事務所長	昭和 38.2.	"	
"	桜木 四月彦君		昭和 39.2.2	"	77才
"	北 美松君	住友金属工業 KK 工務室	昭和 38.12.17	"	33才

支部所在地

北海道支部	札幌市平岸 北海道開発局土木試験所内 (電 札幌 83-4161)
東北支部	仙台市北三番丁 124 建設省東北地方建設局企画室内 (電 仙台 22-4191)
中部支部	名古屋市南区南外堀町 6 の 1 名古屋市水道局上水道拡張課内 (電 名古屋 94-5511 内 295)
関西支部	大阪市天王寺区堀越町 110 天王寺ステーションビル 4 階 (電 大阪 716-7881 内 33)
中国四国支部	広島市国泰寺町 39 広島市建設局土木課内 (電 広島 41-1111)
西部支部	福岡市土手町 6 建設省九州地方建設局内 (電 福岡 75-4331)

昭和 39 年 4 月 10 日印刷

昭和 39 年 4 月 15 日発行

土木学会誌 第 49 巻 第 4 号

印刷者 大沼正吉

印刷所 株式会社技報堂

東京都港区赤坂溜池 5 番地

発行者 羽田巖

発行所 社団法人土木学会

東京都新宿区四谷一丁目

定価 200 円 (送料 20 円)

振替 東京 16828 番

電話 (351) 5130・5138・5139 番



橋梁・鉄骨・鉄塔・鉄構物



# 松尾橋梁株式会社

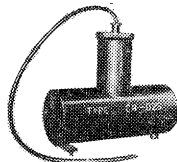
本 社 大阪市大正区鶴町3丁目1 10番地 電話 552-1552 (大代表)  
 支 店 東京都江東区南砂町4丁目624番地 電話 644-4131 (代 表)  
 出張所 札幌市北三条西2丁目伸通926番地 電話 2-0 8 3 1  
 工 場 大 阪 堺 東 京 千 葉

計器を生かす道

## カールソン型計器と沈下量の測定

計画→計器設置→実測→解析報告迄当社の一貫した業務を御利用下さい

### 微分傾斜計の紹介 実用新案 第571121号



本器は名称のごとく設置点の勾配 $dy/dx$ を観測するもので最も感度の高いものは $2''$ の傾斜を分離する。すなわち100mにつき1mmの勾配に相当する。したがって現在最も高感度の気泡管水準器にひび敵する。しかも電気的な増幅をいっさい行わずに遠隔測定ができるのであらゆる傾斜の測定が可能になった。また本器はその構造上振子の固有周期が非常に長いので数サイクルの振動現象に対しては振子が静止系となり動変位計として働く。

これは土木工学でしばしば問題になる地震に対する観測計器として非常にユニークなものである。温度変化に対しては全体が完全に対称で平衡を保持する構造になっているので全く異状を生じない。本器の特色を列挙すると次のとおりである。

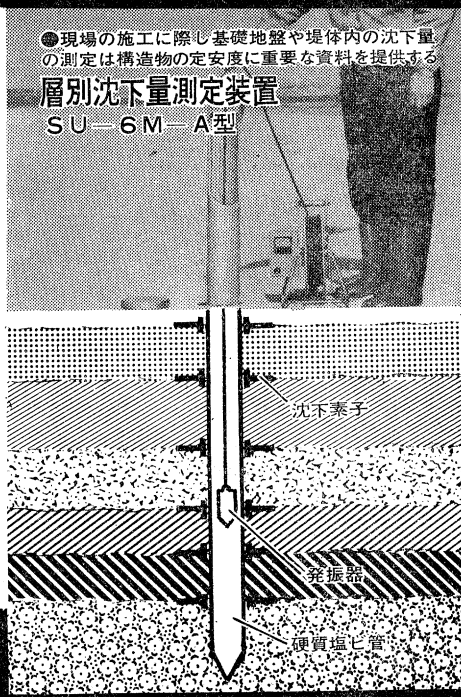
- ①カールソン型計器の一群として使用できるので特別な指示計の必要がない。
- ②静的には高感度の傾斜計として動作し動的には動変位計として働くので目的によっては兼用できる。
- ③埋設用であるからあらゆる場所に設置できる。
- ④ダム及び岩盤の傾斜測定。
- ⑤鉱山での崩落予知に適している。
- ⑥橋脚・主塔などの傾斜測定。
- ⑦高層建築物の傾斜測定。
- ⑧鉱害調査等で地盤の沈下を観測出来る。
- ⑨重機械等の保守管理。
- ⑩発電所の床や水圧鉄管のアンカーブロック等の保守。

以上の外に光学的な測量では困難なすべての微小な傾斜測定に殆んど応用出来る。

カタログ贈呈 読名記入の上お申込み下さい

●現場の施工に際し基礎地盤や堤体内の沈下量の測定は構造物の定安度に重要な資料を提供する

### 層別沈下量測定装置 SU-6M-A型



## 株式会社 土木測器センター

東京都大田区萩中町224 TEL 742-4741 (代表)